

医療とコミュニケーション

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
担当教員	藤澤 美穂 講師、平野 順子 非常勤講師、大関 信隆 非常勤講師、塩谷 昌弘 非常勤講師、駒野 宏人 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

医療人にとって必要な情報伝達の数々についてさまざまなアクティブラーニングやワークを通じて学ぶ。あらゆるコミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」の多様性について知り、障がいを持った人々との情報交換の有り方も含め医療現場で必要なコミュニケーションの種類とその心構えについて理解できるようにする。

情報を集め、それを分類・理解してしっかりと受け止め、そして、正しく発信するための基本的なことがらを学習する。論理的にわかりやすい表現で自分の考えを伝えるための技術を修得する。また、上級学年において医療面接の手法を学んでいくための準備として、コーチングという対話の仕方について理解を深める。

・教育成果（アウトカム）

コミュニケーションの多様性と可能性の実態に関する講義内容を整理し、医療人にとって必要なコミュニケーションの種類とそれぞれのコミュニケーションの仕方の留意点を認識し、実践することができる。（ディプロマポリシー：1、2、3、4）

・到達目標（SBO）

- 1.医療人にとって必要なコミュニケーションについて基本的なことがらを説明することができる。
- 2.情報を正しく受け取り、わかりやすく伝達することができる。
- 3.相手の自己肯定感を上げるコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができる。
- 4.障がい者のコミュニケーションの実態について理解することができる。

・ 講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/22	金	3	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>医療におけるさまざまなコミュニケーション (1) 【双方向授業】</p> <p>1.さまざまな現場や対象者（年齢、障がい等）とのコミュニケーションについて学び、その特徴を述べることができる</p> <p>2.言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、その特徴を説明できる。</p> <p>事前学習：どのような医療現場があるか、インターネットで調べ、まとめてくる。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。ワークをふりかえる。</p> <p>A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①</p>
4/28	木	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>医療におけるさまざまなコミュニケーション (2) 【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <p>1.援助行動について学び、その特徴を説明できる。</p> <p>2.相手の立場にたったコミュニケーションとは何かを考えることで、医療人となる自分が今後身につけるべき態度・技能は何であるか、述べるができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>医療人としてのコミュニケーションのあるべき姿について、自分なりの意見をまとめる。</p> <p>A-4-1)-①、A-4-1)-②、A-4-2)-①</p>
5/6	金	3	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング1：コーチングの概要【ワーク】</p> <p>1.コーチングとティーチングの違いを説明できる。</p> <p>2.コーチングの価値と可能性を理解できる。</p>

					<p>事前学習：「コーチング」についてインターネットなどで調べる。 事後学習：講義内容を実践する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
5/12	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング2：相手の話を聴く姿勢【ワーク】 1.傾聴することの重要性を理解できる。 2.傾聴の基本を実践できる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
5/19	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング3：相手を認めるメッセージ【ワーク】 1.相手を認めることの重要性を理解できる。 2.自己肯定感を高めるメッセージを伝えることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
5/26	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング4：相手の答えを引き出す質問【ワーク】 1.質問の種類を説明できる。 2.答えを引き出す質問をすることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
6/2	木	1	教養教育センター	大関 信隆 非常勤講師	<p>自閉症児（ASD）のコミュニケーション【双方向授業】 1.ASDの言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。 2.ASDと上手に関わり、安心して生活できる環境の作り方を提案できる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>

6/9	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「永訣の朝」を読む</p> <p>1.宮澤賢治「永訣の朝」について説明することができるようになる。</p> <p>2.他者（作者）の意図を考えられるようになる。</p> <p>事前学習：宮澤賢治についてインターネットなどで調べる。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
6/16	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「眼にて云ふ」を読む</p> <p>1.宮澤賢治「眼にて云ふ」を読むことで、非言語的コミュニケーションについて説明できるようになる。</p> <p>2.詩を読むことを通して、他者への理解を深めることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
6/23	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「やまなし」を読む</p> <p>1.宮澤賢治の「やまなし」を読むことで、発話の体系について説明することができるようになる。</p> <p>2.他者の発話の在り方に注意を向けられるようになる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②</p>
6/30	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「猫の事務所」を読む</p> <p>1.宮澤賢治の「猫の事務所」を読むことで、組織のなかのコミュニケーションについて考えられるようになる。</p> <p>2.差別の構造について説明することができるようになる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。</p>

					事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②
7/7	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	宮澤賢治「よだかの星」を読む 1.宮澤賢治の「よだかの星」をコミュニケーションの視点から読むことができるようになる。 2.他者の「生」の在り方に意識的に注意を向けられるようになる。 事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②
7/14	木	1	教養教育センター	駒野 宏人 非常勤講師	コミュニケーションに役立つ脳科学と心身相関【体験型授業：言葉、考えがどのように身体に影響するかなどの体験をする】 脳とからだの情報伝達について理解できる。 言葉や思考と筋肉の反応の関係を理解できる。 身体感覚に意識を向け、身体感覚に気づくことができる。 事前学習：心と身体のつながりについて、自分の体験をまとめる。 事後学習：講義内容を復習する。 A-4-1)-①
7/21	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	宮澤賢治作品とコミュニケーション 1.宮澤賢治作品とコミュニケーションとを関連させて説明することができる。 2.コミュニケーションの多様な様態について説明することができる。 事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。 A-4-1)-①、A-4-1)-②

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタディ・ナビゲーション	人間科学科・附属図書館	岩手医科大学	2022

・成績評価方法

ワークシート・レスポンスシート記載内容（50%）、確認テストの成績（10%）、レポート（40%）によって総合的に評価する。ワークシート・レスポンスシート記載内容は、シートに記載された内容および WebClass に入力・提出された内容を対象とし、初回講義で示す「シート評価基準」に従い評価する。

・特記事項・その他

ワークシート・レスポンスシートへの記載・入力内容については、内容に応じて翌回の講義内でフィードバックをおこなう。適宜 WebClass からフィードバックをおこなう。
WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

提示した課題の中から 1 題を選択してレポートを作成し、WebClass から提出することを求める。評価は WebClass からフィードバックする。
各回講義に対する事前学習の時間は最低 30 分以上を要する。各回講義に対する事後学習の時間は最低 30 分以上を要する。

レポート試験後に講評・解説等を WebClass にておこなう。

【事前学習・事後学習のポイント】

事前学習：講義内容の確認をした上で、トピックに関連する事項をインターネットや図書館で検索し、問題点を抽出しておくこと。最低 30 分以上を要する。

事後学習：講義資料を確認し、ワークでおこなった内容をふりかえり、自分なりにまとめておくこと。興味をもった箇所やわからなかった箇所を図書館の文献等で調べる。最低 30 分以上を要する。

講義で身につけたさまざまなコミュニケーションの方法を、実生活や実習の現場で応用する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	BD/DVD プレーヤー	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成